

09 スカラ座広場

スカラ座広場は1856年にスフォルツェスコ城の修復も手がけた建築家ルーカ・ベルトラミにより設計されました。世界で最も有名でプレステージの高いオペラ劇場であるスカラ座のイメージにあったエントランススペースを創るためです。広場のスカラ座とは反対側には現在ミラノ市庁舎となっているマリノー宮があります。広場の中心にはピエトロ・マーニの作によるレオナルド・ダ・ヴィンチ像があります。残る側には1900年代頭にやはりベルトラミの設計により建てられたイタリア商業銀行の建物が建っています。

この広場を設けるためには、ここに元々あった多数の建物を取り払う必要がありました。また新広場のスペースの様式に調和させるために、マリノー宮正面ファサードの一部も変更されました。マリノー宮はこの広場にある最も古い建物で実に1500年代半ばにジェノバ出身の銀行家トマーゾ・マリノーにより建設されたもので設計はやはりジェノバ出身のガレアツォ・アレッシに託されました。マリノー通りに面するファサードも、サン・フェデーレ広場に面する高名なファサードもいずれもアレッシによるものです。まさに、サン・フェデーレ広場でこの裕福な銀行家は、魅力的なヴェネツィア貴族であるアーラ・コルナーロに出会いたちまち見初めたようです。アーラに拒絶されると、マリノーは彼女を略奪し、結婚し、そして妻となったアーラに報いるためにこの豪邸をつくらせたのです。この宮の中庭はレリーフ彫りのある柱廊に四方を囲まれた華麗な中庭として特に高名です。

一方、スカラ座は、オーストリアの女帝マリア・テレーザの命を受け、そしてミラノ中の要請を受けて1777年に建設されました。その1年前のカーニバルの夜に、王宮内部にあった当時ミラノ唯一の公的劇場が火事で燃えてしまったため新劇場を建てるために建築家ピエルマリネが招聘され、14世紀のサンタ・マリア・デッラ・スカラ教会跡が新劇場建設場所として特定されました。なおこの古い教会は、ミラノ領主であったヴェルナルボ・ヴィスコンティが、妻のヴェローナ大領主の娘であったベアトリーチェ・デッラ・スカラを記念してこの名前をつけたものです。スカラ(階段)がないのに、「スカラ座」と呼ばれるのはこのためなのです。

スカラ座の簡素な正面ファサードの上部には、芸術守護神であるアポロの馬車のレリーフのあるペンディメントがあります。一方ファサードの下部は柱廊のついた正面入り口となっています。スカラ座に向って左側には、オペラ愛好家の幸いなことに、1911年にオープンされ14の展示室からなる大変豊かな所蔵品を誇るスカラ座博物館があります。ここにはゆかりのある作曲家の遺品、胸像、肖像画、舞台衣装や宝飾品、舞台美術や舞台背景、舞台仮面、人形劇の人形、書物、自筆手稿、などスカラ座ゆかりの品々すべてが所蔵されています。1778年8月3日の同劇場のこけら落としの日から、スカラ座では主要なオペラの数々が上演され、世界中の偉大なアーティストたち、すなわち、バレリーナ、指揮者、作曲家、オペラ歌手、舞台美術家、演出家などが、この舞台上でパフォーマンスを行い、名声を確立していきました。

第二次世界大戦中の爆撃の後、記録的なスピードで再建され、1946年5月11日、アルトゥーロ・トスカニーニの記念すべきコンサートにより、再開されました。

スカラ座内部にはパーフェクトな音響装置が整備され、ネオクラシック様式の華麗なインテリアのホールはU字型の形をしています。平土間席、ボックス席、栈敷席など4種類の座席に全部で3600名の観客を収容することができます。

2001年にはスカラ座は舞台装置など機能面で最先端技術をとりにいれるとともに劇場全体のリニューアルなど全面的な大修復工事を行いました。外観は正面は元の姿を残していますが、後方に円形のタワー、そして上部階が新設されるなど大胆な改造が加えられました。スイスのカントン・ティチネーゼの建築家マリオ・ボッタの設計によるものです。